

ンドシツになるものが果してあらうか。お互が仲よくしてゐるのは、相ともに利する處があるからではなからうか。甲は乙を利用して乙は甲を利用す——利用と云ふ事は相互的になる時決して罪悪でない——要するに利用しあつてゐるので、かくしてクラスメートの交情は續けられて行くのだ。つまりらぬ虚飾を去つて、お互大いに利用しあはう。と、さてこそ主義と銘のうたれた次第。此連中は各々の無用の時間を相合して、智識の交換を爲すのである。別れる時には、「さよなら」などと月普みの事を云はぬ。

「また利用しに來給へ」と云ふ、往來で出あつても「どうだ、ちつと利用しに來ないか」とやる。何と面白い現象ではないか。……いや面白い事を思ひ出した。これも讀人しらすだが、法科生等が酒間に歌ふものに「近代的だわね」節とでも名をつけたいがある。

「教授訪ふのも卒業間際あとは、野となれ、山となれ、近代的だわね」  
卒業するのを今かとまでと、君は享樂主義とやら近代的だわね」  
「ヘルツリーべは昔の夢よ、二十世紀はゲルトリーべ、近代的だわね」  
「見えもせぬのに福來博士、千里眼など騒ぎ出す。近代的だ



# 老探偵の眼に映じたる現代社會

某老探偵談

昨年にして今年に犯罪の数が少いとか、一昨年にしては一層減少して居るとかいふやうに、ぼつ／＼樂觀して居るやうな聲を聞きますが、それは成程統計表に現はれた數の上で云つたので、間違ひのない事でせうが、之れを以て現代社會が漸次善い方に趨いて居るかといふと、それは大なる誤りだらうと思ひます。

實際新聞の上でも御承知でせうが、恐らく近年の如く慘忍なる犯罪の續出する事は何の時代にもあるまいと思ひます。敢て小泥棒や掏兒などの被害が少くなつたと云つても、一方斯の大犯罪が多くなれば、統計表の數の上に於て減少しても現代社會は大に寒心すべきものと云はなければなりません。一體大戦争の後には人心が殺伐に趨くといふ事ですが、近年の現象は強ちそれのみとは云はれない。之れ等の原因は要するに矢張社會が複雑になるにつれて、世に處する事が次第に難くなる。つまり行路難から來る犯罪が多いやうです。

「信濃節の節で歌ふ様である。大學生の社會觀とでも云ふか、聊か目先きの變つた歌である

## 八 醒めたる學生の先輩觀

青年は云つて居る。社會とは不眞面目なもので、先輩は思想に於て、吾々の後輩である。此故に卒業前の學生の如き、最も社會觀の圓熟したる青年は、必要に迫られ急に一轉して所謂近代的になる。彼らは先輩に操られる様な顔をして先輩を操つる不屈者である。彼らは巧みなる人格の三分立を演ずる様になる。尤も自動車でポケット論語を讀み乍ら救世軍の演説に行つたり、女優を孕ませて一方に道徳論をやる先輩の一部の様に辛辣でないにしても、もつと輕妙に、もつと茶化して、もつと皮肉にやつてゐる。就職難を嘆ずる青年は多い。夫れは悪人の事、自分は信ずる。官立の大學を出で、社會の如何なるものかを知る以上、腕を揮ふ位置を見つけ得られぬ事はない！學窓より見たる社會はかくの如し。果して當つてゐるかどうか？ (二月七日夜)

其の證據には昔の小説や講談を見ても、悪人は生れながらの悪人で、初めは金着切から小泥棒が、次第に悪事が募つて屋尻切強盜と進歩して行くやうです。然るに現代の悪人は必ずしも然うでない。前科者に大悪人は成程ないでもないが、大犯罪をする者が、小悪から次第に進んだとは云へない。多くは中年から不意に大悪人が飛び出すのです。之れはつまり行路難などの原因から餘儀なくされるのだらうと思ひます。而して斯る酸鼻極まる大犯罪が頻々として生ずる割に、檢舉される事が到つて少いといふ非難は屢々聞く處ですが、之等は誠に尤もな話で、又大に原因のある事です。一體警視廳とか警察とかいふ者は年々歳々改善されて、新智識を容れる事は到底昔年の比ではありません。然しながら直接我々探偵に従事する處の刑事といふ者は殆ど度外されて別物の如き觀がありました。所謂舊幕時代の岡引の流を汲んだものばかりを以て組織してゐる。だから社會からも探偵と

いふ者は何となく嫌悪の情を以て迎へられ、自分も亦自ら卑しめて、何か社會とは相容れざる處の別階級の者のやうな考へを以て居たのです。爲に社會は進み、警察は進んでも、探偵だけは依然として社會とは伴はない處の岡引任せにしてあつたのです。之れで進歩したる現代社會に於て完全なる結果が得られるでせうか、いとも見容い道理だらうと思ひます。社會が進歩するに従つて、犯罪も亦次第に進歩して行くのです。殺人の方法も、犯跡湮滅の手段も亦進歩して來て居ます。然るに今云ふ通り探偵は之れに伴つて進んで居ないのでから、容易に檢舉されないのも無理はないではありませんか、近年當路者も漸く此に氣がついて、探偵の改善に力を盡すやうになり。或は學校を設けたりなどして、教育を奨勵するやうになりましたが、何の仕事でも然うですが、殊に此の仕事ばかりは、頭に新智識を注入したばかりでは満足な結果は得られません。如何しても經驗に待たなければならぬのです。處が今の時代は所謂過渡期にあるので、手腕のある經驗の富んだ者には頭がなく、新しい頭を持った者は手腕が思はずやうな結果になり、檢舉は終に出来ない。其の中に又新しい犯罪が生じる。愈々狼狽するばかりで、終には社會から非難攻撃される事になるのです。



を逸する事は出来ないでせう。前に云つた大犯罪の中にも此學生上りといふ事が屢々ある。即ち之等も中年から一思ひに大それた悪事を働く者の一例にもなります。現代に學生の墮落は實にお話にならない程で初めは彼の活動寫真とか縁日とかで、艶書を之れぞと思ふ、女の袂へ投じる。すると又女にも此誘惑に懸る奴があるから愈々困るではありませんか。それから次第に墮落の深淵に陥つて、終には立つ瀬がなくなり、詐欺となり、強盗となり、殺人とまでなるのです。一體青年男女が現代に限つて斯んなに墮落するといふのは、原因は偏に教育の方法に缺くる處があるのではありますまいか。私等の考へでは今は餘りに智育にのみ忙しくて、兎角德育の方がお留守になり勝たないのであるまいか。それが爲に自分の慾を制する事が出來ず、思ふが儘に振舞ふのが、次第に嵩じて終に救ふ可からざる事になるのでせう。

それから中流以上の家庭の亂れて居る事も現代社會が最も甚だしいでせう。之れは法律上の犯罪とまでは行かないでせうから、我々の手も足も出せない事ですが、之れが社會に害毒を流して、其の未流には幾らも恐る可き犯罪が生じるのです。又斯る家庭の生んだ子こそ、肝腎の勉強時代に到つて例の不良學生の群に投じるのが多いのです。

黒岩先生が盛に西洋の探偵小説をものされた時分、世間では單に讀物として歓迎した。然し之れは小説とのみ見られぬ事もあらうと思ひます。之れに據て犯罪の方法を悟つた奴もあるでせう。然しながら之れに據て進んだ探偵の方法を研究した探偵は恐らく無かつたでせう。當路者は勿論斯る犯罪斯る探偵の方法は實際あり得べき事とは思つて居なかつたでせう。然るに社會は一刻と進む。恐るべき大犯罪は頻々と起る。さあ最早狼狽しても追付くわけはないではありませんか。簡單な一例を申せば、毒殺の方法に依つて、醫師とか醫學生の失敗者と目星をつけるとか、詐欺の方法に就いて銀行に居た者とか、辯護士とかに就ても常に研究して、多少の智識を養つて置かなければならぬ譯でせう。然るに舊式の岡引は博徒とか掏兒とかに就てこそ研究は十分に積んで居やうが、斯ういふ新しい研究には餘りに頭が陳いではありませんか。況んや現代社會には如何なる不可解の犯罪が生じるか分らない。それに例の岡引では間に合ふ譯はない。如何か其筋でも此邊に留意して居るやうですから、聽ては理想的な探偵が出來て、如何なる大事件もどしどし解決を付けて行くやうになるでせう。

吾々が檢舉する不良學生の中には實際貧家に育つた者は少いやうです。それは常に不自由をのみ忍んで居るので、自分が慾がなくても、先づ身を立て、後といふ考へが常に去らないから自然成功を急いで、墮落する暇がないのでせう。然るに中流以上の腐つた家庭に育つた者は、子供の時から好き勝手な事をして長じ、又親の名望を肩に着て、外に出ても自由な事をする。酒色の味を早く覺える。勢ひ墮落するのが早いのです。

又一方學生の墮落の原因は試験責といふ事も一つではあるまいかと思ふ事があります。例へば官海で身を立てやうとする者、彼の高等文官試験で苦しめられる。之れは隨分學生に取つては苦痛に相違ない。有爲の材を抱いて居る者でも、一朝失敗すると第一に悲觀の基となる。昔は所謂風雲に乗じて立身した例は珍らしくない。例へば今の元老諸公でも、實際に嚴しい試験問題を以て問ふたなら、恐らくは落第したかも知れない。然しながら試験に依つてではなく或る力を以て漸次今の地位を贏ち得たのです。今の青年にも必しも試験に一箇所位缺くる處があつても、立派に物の役に立つべき人物がないではありませんまい。それが登龍の第一の關門に於て失敗すると、それから悲觀して終には例の墮落の淵に陥つて、未だ恐るべき犯罪を爲す者も生じて來るのです。實際學生上

りの犯罪者で、其原を調べると、相應に出来の好かつた秀才が、運悪く此の試験に失敗した爲に、それから悲觀し自暴自

棄となり、終に斯うなつたといふ事は屢々見聞する處です。



# 興行師の觀たる現代社會

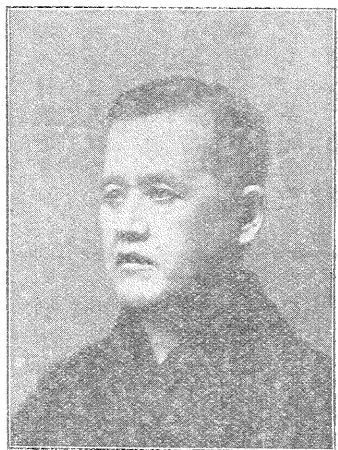
歌舞伎座 興行主任 田村成義君談

現代の社會は日に月に進んで行く。皮相だけを觀ても西洋の文明を追ふて行く。西洋建は年々に増え、洋服を着る事は漸々に多く、法律でも官海の中でも盡く西洋を則つて居るのに、獨芝居だけが昔の儘の丁髷で何時迄も居る譯に行かないのは分り切つて居る事です。只要に急になるか緩りなるかの異だけでせう。然し心で思ふ事と、形に現はれる事とは如何も實地に於て一致しないやうです。孝行はしなければならぬといふ事は、萬人が萬人思つて居ながら、扱て其割に孝行者が少いやうな譯で、芝居の現代の社會に伴つて進まなければならぬとは思ひつゝも、其の實行に到つては兎角思ふやうには行かないやうです。

それに興行といふ事は一つの商賣で、如何しても利益といふ事を度外に置く事が出来ないから、餘り突飛な仕事をして金主なり株なりに損を掛ける譯に行かないといふ遠慮も出て来て、思ふやうに行かないのです。

さうかと云つて改良と云ふ事も急にやるのは善し悪しでせう。赤坊から子供になり、子供が大人になり、それから爺さんになる。赤坊の時分に嫉を好くして置けば善い子供になる子供に好い教育を授ければ立派な大人になる。大人が道を誤らなければ好い爺さんになる道理でせう。改善といふ事は赤坊の時分から朝に晩に心掛けて居ねば好い爺さんは出来上りません。洋食を五人前食つて、天井へ半日ぶら下つて居たとて、急に大きくなりもしなければ、俄に丈も高くならぬ。打乗つて置いても赤坊は爺さんにはなるが、其の間に改

善を怠つたら、好い爺さんになる事は出来ません。牛若と辨慶が續飯を廻つたといふ談がある。辨慶は力一杯にやつたので満足なのは出来なかつたが、牛若は氣長くやわく廻つたので好い續飯が出来たといふ事です。芝居の改善も一時に洋食を五人前食つても、辨慶の方で續飯を廻つても然う急にやつてはやり損ひが出来るでせう。さうかと云つて年が年中お半長右衛門やお染久松では困る。常に改善を忘れさへしなければ好いのです。



田村成義氏

もお染久松でも喜んで見て居る代りに、これでは一向、向上進歩が難しい。要するに其の中位の處を捉へて行くより仕方はありません。一聲と三聲は賣らぬ玉子賣りで、玉子々々玉子」と賣つても可笑しいし、玉子」と只一聲でも可笑い。矢張り「玉子々々」と二聲賣つて行くといふのが興行人としても最も考へ可き處と見なければなりません。

それから又何でも彼でも西洋風になるとは云ふものゝ、芝居が全然さうはなれない譯があります。一體西洋の人は働く時と遊ぶ時とさつちり區別があり物を食ふのと、芝居を見るのは別にするが、日本は總てがごつちやです。芝居へ来て物を食ふのは一つの楽しみにして居るのは昔からですが、近頃では芝居の棧敷で頼信紙を買つて大阪へ電報を打つたり茶屋の電話で東株を百枚買つたりするやう

か今の芝居は此の運びも選ばれもしない何千人を對象とする譯には行かないが、然うかと云つて代議士に選ばれる只二人の人を對象とする譯にも行きません。つまりは選ぶ權利を有つて居る二百人の人位を狙はなければなりません。二人の代議士は改良を厳しく強ひるが、其人の云ふ事を聞いて居たゞけでは飯が食へませんし、又何千人の人にはお半長右衛門で

なお客が一向珍らしくない。斯ういふのが日本の現代社會なのだから一概に西洋の寸法には當てはめる譯には参りません。それでも近頃は平素の日より日曜日が芝居が入りがあるやうになつたのですから、追々西洋風にはなつて行くのでせう。又晝間興行するのは野蠻で、午後四時頃一日の仕事を終つ